

才オバ 正会員 遠藤邦彦 横浜市 池田隆一
" 正会員 山田道男 " 上野 麿

各変位杭の沈下量と変位杭を設置した場所の沈下対象層厚との関係を示したものが図～4である。図～4によれば盛土のり面表面の沈下量は、沈下対象層に関して、平均的に1%程度のひずみ量を示している。

盛土の側方変位量は、のり面に対して直角方向と平行方向と別々に測定した。測定された側方変位量を合成して、盛土開始から現在にいたるまでの側方変位方向を矢印で示したものが図～5である。

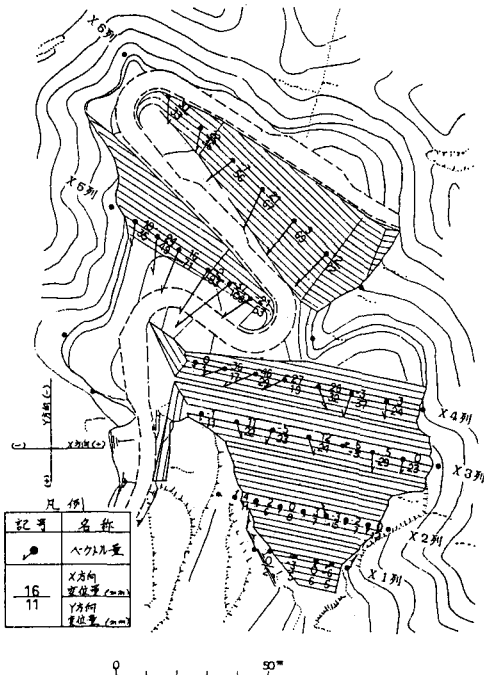
図～5に示した盛土全体の平面的な動きは、のり面に直角方向の動きが基本と思われるが、部分的には、盛土前の基礎地盤の斜面方向の影響をかなり強く受けていることが見うけられる。

また、①、②地点付近より③、④地点付近の方が、沈下量、側方変位量とも相対的に大きいのは、沈下対象層厚が大きい他に若干盛土材料が異なることと、工事用道路がのり面内に通過してあり、土運搬のダンプトラックの振動等によって、変位が促進されたものと思われる。

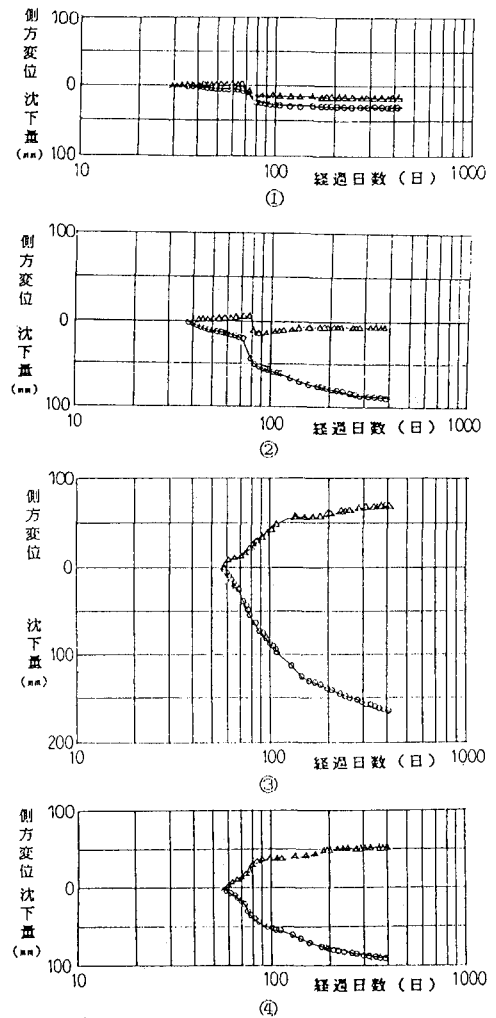
4. あとがき

盛土のり面に設置した変位杭の詳細な観測結果より、盛土のり面の变形をかなり明らかにできた。

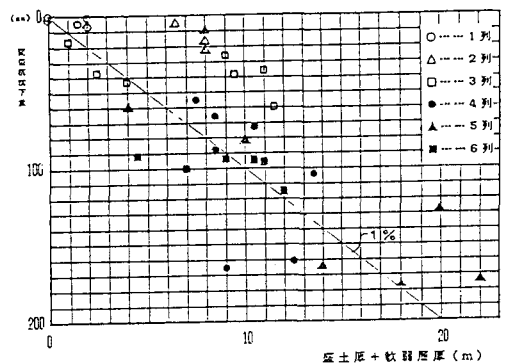
また、この盛土のり面には、変位杭以外にもクロスアーム、T型沈下板、間隙水圧計等が設置してあり、これらのデータについても現在整理を実施中である。



図～5



図～3



図～4